

「第1回自動車リサイクル会議」 開催報告

公益財団法人自動車リサイクル促進センターは「自動車リサイクルの1年が分かる会」をコンセプトに、自動車リサイクルを取り巻く動向や当財団の直近の取組みをご紹介するカンファレンスをウェビナー形式で開催しました。本カンファレンスには各界を代表する登壇者をお招きし、ご講演いただきました。各方面から多くの方にご参加いただき、講演プログラムにおいては活発に質疑をいただくなど、有意義な会議となりました。

- 日 時 令和4年12月1日（木）13:30～17:00
- 場 所 ウェビナー形式
- 主 催 公益財団法人自動車リサイクル促進センター
- 参加人数 約200名（時間帯で変動あり）
- プログラム [別紙参照](#)
- 講演／報告の概要

1. 特別講演 「循環経済・政策と自動車リサイクル」

公益財団法人自動車リサイクル促進センター理事長
細田 衛士

本講演では、日本の自動車リサイクル法の背景や基本的な仕組みに関する振り返りをしたうえで、同法の成果及び課題、課題解決のための方法が紹介されました。また、自動車リサイクルの分野でも、循環経済の実現（資源のより高度な循環利用）が求められており、そのために必要なハードローとソフトローを組み合わせた制度的インフラストラクチャーのあり方や、情報連携を含むパートナーシップのあり方についても言及されました。



2. 包括講演 「自動車資源循環情報プラットフォームの設置と今後の JARC の取組み」

公益財団法人自動車リサイクル促進センター専務理事 C00
阿部 知和

本講演では2030年を目指す財団ビジョンが紹介されたのち、その達成に必要なリーチングアウトの例として、自動車資源循環情報プラットフォーム（以降、ARCIP という）の機能及び実施事項や、資源回収インセンティブ制度の事務局対応状況等が紹介されました。また、ARCIP を通じた財団の今後の取組みとして、ARCIP が自動車リサイクル関連情報のハブ機能を担っていくこと、今後連携を想定するプレイヤーについて説明があ



りました。

【質疑応答】

Q1:「資源回収インセンティブ制度の自動車リサイクルシステムへの実装に向けた提案」とあるが、JARS のシステム改修とインセンティブ制度の実装が一体的に行われるイメージであるか。

A1: 回収したプラスチック・ガラス等の重量等を的確に把握する必要もあるため、JARS のシステムとの連携が必要と考えている。

Q2: 英語での情報発信をさらに進めていくことも検討しているか。

A2: 経済産業省と連携し、アジア展開も検討している。日本の先進的な取組を紹介していくために、英語での情報発信が必要と考えている。

3. 基調講演 「日本のモータリゼーションの発展における自動車静脈産業の形成および我が国の経験を生かした国際協力の可能性」

山口大学国際総合科学部教授

阿部 新 氏

本講演では、日本の自動車リサイクルの歴史と比較しながら、東南アジアの自動車リサイクルの現状及び今後顕在化する可能性のある問題に係る考察が述べられました（日本のように使用済自動車が増加すれば、野焼きや不法投棄が行われ、環境問題につながる可能性等の指摘）。こうした現状を踏まえ、日本と東南アジアの国際協力の可能性に言及し、それに向けた日本の経験や市場構造の研究の重要性などが述べられました。



【質疑応答】

Q1: モンゴルでも中古の自動車の流通が多い傾向があり、特にプリウスの割合が多いようである。この場合、他国の中古車市場と違う特徴が発生するか。

A1: バッテリーが発生することは特徴になるであろうが、基本的な市場構造は変わらないと思われる。

4. 講演 「自動車解体業界の未来に向けた取り組みの紹介」

一般社団法人日本自動車リサイクル機構事務局
京野 新達 氏

本講演では、日本自動車リサイクル機構の設立目的や事業概要が紹介されたのち、同機構の具体的な取り組みとして、エアバッグ袋リサイクルの取り組み及び自動車リサイクル士制度の取り組みが紹介されました。エアバッグ袋リサイクルの取り組みに関しては、解体時に回収したエアバッグ袋を服飾品の生地としてアパレルブランドへ販売する事例が紹介されました。また、自動車リサイクル士制度の目的や意義が説明され、解体業界だけでなく、自動車リサイクル業界全体における活用の必要性について言及されました。



【質疑応答】

Q1：リサイクル士のテキストの英語版発行の予定はあるか。

A1：外国人にも使用できるようにする必要があるという意見もあるため、現在検討中である。

Q2：エアバック袋のリサイクルのほかに回収している事例はないか。

A2：シートベルトの回収も行っている。(バッグの持ち手等に再利用している)

5. 講演 「自動車破碎業界の最新動向と資源循環促進に向けた取り組み」

一般社団法人日本鉄リサイクル工業会自動車リサイクル法委員会委員
マキウラ鋼業株式会社 代表取締役
薪浦 州平 氏

本講演では、自動車破碎業界における取り組みの事例として、マキウラ鋼業における資源循環促進に向けた取り組みが紹介されました。また、新型コロナウイルスによる経済停滞に伴う使用済自動車の減少が、設備の遊休を引き起こしていることや、大型シュレッダー等設備の老朽化問題について言及されました。資源循環促進に向けた取り組みとしては、シュレッダーダストからのプラスチック原料回収事業が紹介されました。



【質疑応答】

Q1:回収プラスチック販売の際に環境データ等（規制物質の含有調査やSDS等）の対応をしているか。

A1:プラスチックは国内向けに出荷しているが、出荷先での評価は行われている。今後Car to Carを目指していくうえで規制物質等をどのように管理していくかは、関係者と検討している。

Q2:ASRのマテリアル選別は水選別を用いているか。

A2:水比重1.0の水を用いて選別している。

Q3:御社の取り組みは、母材不足から収益の確保としてプラスチックのリサイクルを重視されているということなのか。

A3:プラスチックの回収事業に関しては、正直、収益確保するのが難しく、現状では収益確保が出来るから実施しているというよりは、如何に収益確保、すなわち採算ベースに載せて事業展開していくかが肝であり課題であると捉えている。現段階ではようやく赤字事業ではなく、何とかプラスマイナス0くらいにまで軌道に乗せる事が出来た。これを更に収益事業にしていく事でプラスチックの回収率は上がると思っており、今後も尽力していきたい。

6. 講演 「自動車リサイクルシステム大改造について ～2026年1月リリース予定～」

公益財団法人自動車リサイクル促進センター業務執行理事 CIO

樋口 勝敏

本講演では、自動車リサイクルシステム大改造の背景として、自動車リサイクルシステムの役割、概要、システムリリース当初のトラブル等が説明されました。そのうえで、システム大改造の概要、スケジュール、改革コンセプトが紹介されたほか、具体的な取り組みとして解体業者等への情報提供における改善、外部システムとの接続によるデータ連携方法、画像読み取り技術の採用、データ利活用促進のためのBIツール充実化等、最新の情報システム技術の導入について検討していく旨が説明されました。



【質疑応答】

Q1:大改造による移行期には現場での混乱も予想されるが、システム大改造に伴い研修なども予定されているか。

A1:説明会等、周知・広報は、計画的に実施していく予定である。

Q2:これまでに公開されていないデータが公開される可能性はあるか。

A2:公益財団法人であるため、基本的にはデータをオープンにすることを想定している。今後も、公開によって害がないかを適切に検討したうえで、可能な範囲でデータを公開していく予定である。

Q3：LIB リサイクルはカーボンフットプリントの観点でトレサビリティが強化されているが、電池個々のシリアル番号はと VIN 紐付けはどうなっているか。

A3：詳細は、今後詳細設計に入った後で検討する予定である。

Q4：二次元バーコードやコーションプレートの読み取り機能が実装されるようだが、電子車検証の読み取り機能も実装されているか。

A4：車検証の読取り、リサイクル券・リサイクル料金の預託状況を車検証アプリに表示等、国土交通省と多岐に渡り調整中。現時点で確定ではないが、来年・再来年と実施へ向けて調整を続けていく。

7. 報告 「自動車資源循環情報プラットフォーム (ARCIP) 活動の概況」

公益財団法人自動車リサイクル促進センター事業開発推進部長
山中 俊哉

ARCIP の運営体制、2022 年度の活動概況、今後の展開が報告されました。運営体制に関しては、ARCIP 運営委員会の構成委員のほか、年間スケジュールが紹介されました。2022 年度の活動概況については、国内外の自動車由来の資源循環に係る情報を整理して Web サイトで発信していること、WG にて「JARS 情報開示の検討」について議論していることが報告されました。また、今後の展開として、情報基盤の整備、人的ネットワークの形成に向けてグローバル視点の強化などを重点化していくことが説明されました。



【質疑応答】

Q1：グローバル視点の強化という観点から、海外の機関とのイベントの共催等も検討しているか。

A1：今後検討していきたいと考えている。

Q2：今後注力して拡充していく情報があれば教えていただきたい。

A2：自動車リサイクルに関連する国内外政策・法制度動向、自動車業界のカーボンニュートラルに関する動向などを想定している。

以上